News Bridge

日本ユニシス（newsrelease-box@unisys.co.jp）

.NET対応のミッションクリティカルシステム構築・運用支援ミドルウェア「MIDMOST for .NET」の販売を開始

日本ユニシスは、ミッションクリティカル業務を支えるオープンシステム基盤MIDMOST（ミッドモスト）シリーズのひとつとして、Microsoft .NET Framework上でのミッションクリティカルな基幹業務システムの構築を支援するミドルウェア「MIDMOST for .NET」を開発し、2004年11月から販売活動を開始した（出荷開始は2005年2月から）。

日本ユニシスは、長年にわたりメインフレームベンダーとしてミッションクリティカルシステムを構築してきた実績がある。近年は、三井住友銀行のBANCSシステム構築や、MIDMOSTの導入を含む百五銀行、アイワイバンク銀行における勘定系システムの刷新など、Windows上でのミッションクリティカルシステム構築を積極的に手がけている。今回、この経験とノウハウ集約したのが、MIDMOST for .NETである。.NET Frameworkは、Windows上で業務システムを構築する際の基本的な開発・実行基盤を提供している。しかし、現在メインフレームコンピュータ上で稼働している基幹業務システムと同水準のサービスレベルを.NET Framework上で実現するには、開発者は多くの機能を自ら作り込む必要がある。MIDMOST for .NETは、これらの不足していた機能を提供するものである。

また日本ユニシスは、MIDMOST for .NETを活用するミッションクリティカルシステム構築サービスを提供する。同社は、今回のMIDMOST for .NET提供開始にあわせて、.NET上でのシステム構築を支援する開発技法「LUCINA for .NET」にミッションクリティカルシステム構築の経験とノウハウを盛り込んだ「LUCINAテクニカルドキュメント for .NETミッションクリティカル編」を追加し、信頼性（Reliability）、可用性（Availability）、有用性（Serviceability）などの要求レベルが高いシステムを構築するための技法を体系化した。

日立システムアンドサービス（03-6718-5803）

ITサービスの管理と品質向上を目指し、長期的なコスト削減を図るベストプラクティス「ITILソリューションサービス」の販売を開始

日立システムアンドサービス（日立システム）は、ITサービスの管理と品質向上を目指し、長期的なコスト削減を図るベストプラクティスとして注目されている「ITIL」（IT Infrastructure Library）の適用を支援する、「ITILソリューションサービス」の販売を開始した。

ITILとは、企業内の情報システム運用において実施すべき業務と手順、必要な体制と人材、実現する技術と製品の実装方法などを定めたガイドラインである。今やITILは、企業活動に不可欠なITサービスの管理と品質向上を目指し、長期的なコスト削減を図るためのベスト・プラクティスとして、世界的な標準となりつつある。日本国内でも注目が高まり、2003年5月に、ITIL導入促進を目指す組織「itSMF Japan」が設立され、日立システムも団体会員として加入している。

日立システムが提供する「ITILソリューションサービス」は、システム／リソース／ネットワーク／サービスなどのマネジメント分野で、ITILに沿った製品と技術を適用することで、現状の業務をより良い方向へ導き、継続的な改善により安定して質の高いITサービスをエンドユーザーに提供できるよう、ITサービスの運用を支援するものである。

ITILを構成する8つの分野

日立製作所（044-549-1698）

通信と情報システムの融合ソリューション「CommuniMax」のメニューを拡充

日立製作所の情報・通信グループは、IPテレフォニーを核として通信と情報システムを融合するソリューション「CommuniMax（コミュニマックス）」のメニューを拡充し、2004年12月から販売を開始した。

これまでビジネスの主要な通信手段である電話、FAX、電子メールは、それぞれ専用のハードウェアやソフトウェアが必要であり、受信したメッセージもそれぞれの通信手段ごとに管理が必要なため、業務遂行上、時間や場所の制約が生じていた。また、リアルタイムのコミュニケーションであるIPテレフォニーやTV会議システムなどとノンリアルタイムのコミュニケーションである既存のグループウェアなどは、それぞれ個別に利用されており、リアルタイム・ノンリアルタイムのコミュニケーションを組み合わせた相乗効果による、さらなる業務の効率化が求められていた。

このようなニーズに応えるために、日立製作所では、CommuniMaxのメニューとして、「ユニファイドメッセージソリューション」と「グループウェア連携ソリューション」を開発した。ユニファイドメッセージソリューションは、電話やFAXなど通信方法の異なる各種通信データを一元管理し、録音した電話音声や受信したFAXなどを着信メッセージとして、PC上の電子メールやWebブラウザから取り出すことを可能にした。一方グループウェア連携ソリューションは、現在利用しているグループウェアとIPテレフォニーを連携することで、Webブラウザなどからワンクリックで電話の発信を可能にしたり、TV会議の主催者が行う日程調整他の設定や出席者のシステムへの接続などを簡易な操作で実現した。これらのソリューションを提供することで、オフィスコミュニケーションがより円滑に行われ、ビジネスにおける迅速な意思決定や業務のさらなる効率化を支援していく。

アイコム（06-6793-5535）

「FOMA N900iL」の無線IP電話機能に対応した無線LANルータと無線LANアクセスポイントを発売

アイコムは、NTTドコモが発売している「FOMA N900iL」の無線IP電話機能に対応した無線LANルータ「SR-5200VoIP2」と、無線LANアクセスポイント「AP-5100VoIP」の発売を開始した。両製品は、IP電話サービス(050番号)に対応した無線LANルータで、搭載する簡易中継サーバ機能の働きによって、最大18系統の無線IP電話端末（FOMA N900iLやアイコム社製品のSE-50VoIP等）からの通話を実現するものである。特長は、高価なゲートウェイやサーバ装置の導入が不要で、中小規模の事業所向けに最適なIP電話システムが低コストに構築できること。また、AP-5100VoIPは、SR-5200VoIP2の基本性能に加えて、無線IP電話端末から一般電話/ISDN回線での通話が可能で、無線LAN規格802.11a/b/gの同時通信機能や、VLAN機能（最大17の仮想LANグループ構築）にも対応していること。

なお、今回発売した2製品は、NTTドコモとの「ソリューションクリエイティングパートナープログラム（SCP）」契約にもとづいて共同企画した第一弾の製品である。アイコムは、「NTTドコモとのパートナーシップにもとづき、今後もビジネス環境にワイヤレスモバイルの快適空間をお届けする、先進性に優れた無線LAN、IP電話製品を提供していきます」と語っている。

左：SR-5200VoIP2、右：AP-5100VoIP

News Bridge

ガートナー

2007年までにパソコン・メーカー上位10社のうち、3社の市場撤退を予見

2004年11月29日、ガートナーは、世界パソコン市場における今後の動向に関する見解を発表した。パソコン業界は成長率の鈍化と利益率の低下から、今後ベンダーの再編が進み、現在の市場で上位10社のメーカーのうち3社が2007年までに世界市場から撤退すると予見し、過去数年間パソコン市場は、出荷台数が2桁台で成長してきたが、今後は、厳しい時期が到来すると予想している。また、世界のパソコン出荷台数の年平均成長率について、2006年から2008年までは5.7%と予測しており、これは2003年から2005年までの年平均成長率11.3%の半分に相当する。2003年から2005年の間、世界パソコン市場における売り上げの年平均成長率は4.7%と予測しており、2006年から2008年はこの半分以下の成長率で年平均約2%になると予測しており、2006年から2008年まで、世界パソコン市場の成長は、その60%以上が新興地域市場へ依存することになるとみている。同社のクライアント・プラットフォーム・グループ、リサーチ・バイスプレジデントのレスリー・ファイアリング氏は、「市場では依然としてパソコンの買い替え需要が活発なことから、パソコン・ベンダーにとって2005年は比較的堅調な年になると考えられます。しかし、この買い替えのサイクルが終わる2006年以降の市場は、大手のパソコン・ベンダーにとってさえも厳しい状況になるでしょう」と語っている。

コンピュータ・アソシエイツ（0120-702-600）

サーバ・バックアップと統合された完全日本語対応のクライアント向けデータ・マネジメント・ソリューションの提供を開始

コンピュータ・アソシエイツ（CA）は、企業システムにおけるラップトップPC/デスクトップPCにおけるデータ・セキュリティ強化を支援するクライアントPC向けバックアップ・ソリューション「BrightStor ARCserve Backup for Laptops & Desktops r11.1 日本語版」を発表した。同製品は、日本語対応により、製品の操作性と利便性が向上することに加えて、国内バックアップ／リカバリ・ソリューション市場で70%を超えるシェアを誇るBrightStor ARCserve Backupシリーズとの連携が高まり、クライアントPCユーザーの生産性アップと管理者の負担軽減を実現し、企業データ管理の効率化をより強力に支援することができる。

また、今回の完全日本語化は、高い信頼性で定評のあるARCserve シリーズの製品群をより効率よく利用したいというユーザーからの強い要望に対応したものである。現在CAでは、業界最先端の技術を誇るARCserve シリーズをより運用性・可用性に優れたバックアップ・ソリューションとするため、同シリーズ製品の統合化・連携強化を図っており、今回のARCserve for Laptops & Desktopsの提供もその一環である。

OSDL（03-5288-8777）

無停止型サーバを提供するストラタス社が新メンバーとして参加

エンタープライズ・コンピューティングにおいて、Linux の採用加速に取り組むグローバルコンソーシアムであるOSDL（オープン・ソース・デベロップメント・ラボ）は、フォールトトレラント（無停止型）サーバ＆テクノロジー、およびサービスのグローバルプロバイダーであるストラタス社（Stratus Technologies, Inc.）が、OSDL のメンバーとなり、OSDL のキャリアグレード Linux（CGL）、およびデータセンター Linux（DCL）のワーキンググループに参加する予定であることを発表した。

ストラタス社は、99.999%、またはそれ以上の継続的な可用性を提供するために設計されたサーバを製造するプライベート企業である。継続的なシステムアップタイムを 同社のサーバで実現しているユーザーは、世界上位の20 銀行中 15 行、9-1-1 救急サービスプロバイダー、米国の最も著名な輸送機関、およびアジア最大の証券取引所などがある。ストラタス社の参加について、OSDL の CEO である Stuart Cohen氏は、「Linux は、ミッションクリティカルな処理を担うデータセンターの中核に使われ始めており、ストラタス社が我々メンバーとして加わったことは、OSDL のCGLとDCLの両ワーキンググループの取組みに対する業界サポートを実証するものと言えます」と語っている。

サン・マイクロシステムズ（03-5717-5033）

600を超える新機能とAMD64への完全対応を実現したオペレーシングシステムの新版「Solaris 10」を発表

サン・マイクロシステムズは、「Solaris 10 オペレーティングシステム（Solaris 10 OS）」を発表した。Solaris 10 OSは、システムの自己修復機能、性能低下の原因を容易に解明するダイナミック・トレース機能、8,000以上の論理区画を設定し各々独立したアプリケーションを実行することができるSolarisコンテナ、事実上無限大のファイルシステムを構築できるZFS機能、強化された不正アクセス防止機能など、600以上の新規機能を装備したオペレーティングシステムの最新版である。またSolaris 10 OSにおいては、Linux対応アプリケーションをそのまま実行することも可能である。

Solaris 10 OSは、特定のハードウェアに依存することなく、SPARC、x86、AMD64、EM64Tをベースにした270種類以上のハードウェアで動作するマルチベンダー対応のOSである。ライセンス料は、商用、研究開発など使用目的に関わらず無償。2005年1月31日から無償ダウンロード提供を開始する予定である。なおメディアキット（有料）の販売は2005年2月から。また、Solaris 10 OSに対するサポート・サービスは、別途、定額制のサブスクリプションモデルにて提供。利用するシステム構成と用途に応じた3種類のサービスを用意している。

東京エレクトロン（03-5561-7181）

業界初のストレージVPNアプライアンス「CryptoStor SAN VPNアプライアンス」の販売を開始

東京エレクトロンは、代理店契約を締結している米国ネオスケール社の製品「CryptoStor（クリプトストア）SAN VPNアプライアンス」の販売を2004年12月から開始した。同製品は、SANをMAN（メトロポリタン・エリア・ネットワーク）経由で拡張する際に、ネイティブなファイバーチャネルのパフォーマンスを維持しながらセキュリティを確保する、業界初のセキュリティ・アプライアンスである。VPNソリューションが持つ強力なセキュリティ機能と、ファイバーチャネルSANのパフォーマンスを組み合わせた、SAN拡張に特化したアプライアンスであるため、金融、xSPなどミッション・クリティカルなビジネスでのディザスターリカバリーにおけるセキュリティとリアルタイム性を同時に確保することができる。

現在、SANの遠隔地への拡張には、SANのトラフィックをIP化する方法が取られている。IP化するためにはエクステンダーが必要であり、IP化されたパケットを暗号化するためには、さらに別のデバイスが必要となる。結果としてスループットの劣化や遅延が発生し、同期ディスクミラーリングやホスト間通信といったリアルタイム・アプリケーションに適当とはいえない。しかし、CryptoStor SAN VPNは、ストレージ・アプリケーションやネットワークから透過的なため、これらの難問を解決し、ネイティブなファイバーチャネルのパフォーマンスを最小限の遅延で提供することができる。

E3ネットワークス（03-5642-2202）

クライアント管理ツールの新版、「VISION64 V.5.1」を発表

E3ネットワークスは、同社が提供するクライアント管理ツールの新バージョン「VISION64 V.5.1」を発表した（2005年1月出荷予定）。

E3ネットワークスは、同製品の総販売代理店として、2000年から販売を開始し、国内の大手製造業から地方自治体まで、これまでに200社以上、約20万ライセンスの導入実績を誇っている。

昨今、クライアント管理ツールは、これまでのIT資産管理からセキュリティへと、その役割が広がっている。クライアント管理ツールで配布するソフトウェアのうち、最も多いのがセキュリティ・パッチ、次にウイルスパターンファイル、OSのアップデート。また、クライアント管理ツール導入予定者が最も解決したい課題は、「ソフトウェア配布の徹底・配布状況の管理」といわれている。このように、管理対象のPCに対して確実にソフトウェアを配布したいというニーズが年々高まっており、VISION64はそのユニークかつ強力な配布機能により、顧客のクリティカルな要求に応えてきた。今回のバージョンアップでは、さらなる自動化を推し進め、これまでのIT資産管理ツールの枠を超えた「オートノミックPCマネジメント」ツールとして大幅に機能を拡張し、同時に操作性・運用性も大きく向上された。

News Bridge

ベリタスソフトウェア（0120-402-665）

サーバの自動管理／ライフサイクル管理ソリューション「VERITAS OpForce」を日本で初めて発表

ベリタスソフトウェアは、同社のサーバ自動管理／ライフサイクル管理ソリューションである「VERITAS OpForce（オプフォース）」を日本で初めて発表した。

現在多くの企業が、増加するITシステムの管理コストを、サーバの自動化によって削減しようとしている。しかし、既存のサーバ管理ツールでは、全てのサーバを管理できないため、TCO削減に限界がある。それに対して、VERITAS OpForceは、サーバライフサイクルの各プロセスを簡素化することでシステム管理コストを削減し、さらに既存サーバの使用効率を高めることで、サーバリソースの効率的な運用を実現し、システム管理コストとの両面からITシステムの管理コストを削減していく。

また、サーバインフラストラクチャに対して統合的な管理を行い、サーバやソフトウェアの迅速かつ一貫した展開を支援し、共有可能なリソースプールを構築し、1台のサーバを状況に応じてさまざまな用途に利用したり、処理するデータ量に応じて、サーバ上で実行するアプリケーションを変更したりすることが可能である。これにより、既存のITシステムからより高い性能を引き出し、投資効率を最大化していく。

日本HP（03-5304-6660）／東芝ソリューション（03-3457-2725）

HPサーバを使用した高信頼性システムソリューションを東芝ソリューションが提供

日本ヒューレット・パッカードと東芝ソリューションは、日本でのプラットフォーム分野で協業した。両社は、以下の内容で協業を行う予定である。①東芝ソリューションは、HPのサーバ製品群「HP Integrity サーバ」、「HP 9000 サーバ」、「HP ProLiant サーバ」および関連ソフトウェア、各種周辺機器を使ったシステムソリューションの提供を開始する。②両者は、HP-UXの設計仕様レベルでの情報を共有し、HPサーバを利用したシステムにおいて、より高度なシステム構築、保守サービスを提供する。③両社は、セミナーの共同開催や展示会への共同出展、共同広告等の協調販売活動を行う。

HPのサーバ製品群は、日本国内のUNIXサーバ市場において7四半期連続でNO.1のシェアを獲得するなど、世界および日本国内のUNIX、Windows、Linux各分野のサーバ市場において、トップクラスのシェアを獲得して多くの高い処理性能、信頼性、柔軟性が求められるシステムの構築実績がある。これらのサーバを東芝ソリューションの持つ高いシステム構築技術と組み合わせることで、HP-UX、Windows、Linuxの特性を生かした、柔軟で投資効果の高いシステム提供が可能となる。

サミーネットワークス（03-5730-0171）

“世界初”データやメロディをあらゆる電子機器へ簡単・安全に転送できるサービスを2005年春から開始

音質の良い音楽コンテンツを提供してきたサミーネットワークスは、データやメロディをあらゆる電子機器へ転送する新システム「MUPASS（ミューパス）」を技術パートナー企業と共同開発し、2005年春にサービスを開始する。

ネットワークに接続した携帯端末に、楽曲データをダウンロードして利用する着メロは、端末の技術によって著作権が保護されているが、MUPASSでは、これまで不可能だった着メロを他の電子機器へデータ転送することが世界で初めて可能にし、簡単に電子機器が発する音を好みのメロディや音声に変換することを実現したものである。MUPASSは、携帯電話に装備されている赤外線受信装置を利用して、双方向のデータ通信を行うので、電子機器へ簡単かつ安全にデータを送信でき、システム構造的にもシンプルで堅牢である。また、同システムは、社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）からも音楽配信システムとして許諾を受けているので、著作権利用上の問題がない。さらに、ユーザー課金についても、携帯電話の着メロ・ダウンロードに準じたリーズナブルな価格を予定している。同システムを組み込んだ製品は、同社のパートナー企業が生産・販売を予定しており、一般への製品市販時期は、2005年春頃を予定している。

富士通（03-6252-2660）／シスコシステムズ（03-6670-2992）

ルータ・スイッチ分野で戦略提携 高品質なネットワーク製品とソリューションを提供

富士通とシスコシステムズは、ルータ・スイッチ分野で戦略提携を行うことについて基本合意した。この提携により、両社はハイエンドルータの共同開発を実施し、また、ルータ・スイッチの製品ラインナップに関しても協調し、高品質なネットワーク製品とソリューションを提供していく。

ルータ・スイッチは、ネットワークのインテリジェント化を進めていく上で、通信インフラストラクチャの核となるものであり、その性能や品質は、ネットワークシステムそのものに大きな影響を与えている。特に通信サービス事業用のネットワークでは、提供可能なサービスレベルや品質を決定づけている。今後両社は、次世代も見据えたハイエンドルータ向けの最新基本ソフトウェア「IOS-XR」を共同で開発していく。これにより、シスコシステムズが持つ世界最先端のIPテクノロジーと、富士通がこれまで培ってきた高信頼・高可用性テクノロジーにより生み出される世界最高水準のプロダクトをタイムリーかつ継続的に提供することが可能となった。

また富士通は、同製品をネットワークソリューションに組み込むことで、これまで以上に、顧客ニーズへのきめ細かな対応と迅速な運用サポートを行っていく。

日立ソフト（03-5780-6450）／センドメール（03-5537-0367）

企業コアコンプライアンスを支援する 電子メールデータ保管ソリューションで協業

日立ソフトウェアエンジニアリング（日立ソフト）とセンドメールは、企業内での電子メールデータ保管へのニーズの高まりに対応し、電子メールを利用した情報流出の隠蔽や重要データの紛失を防止する電子メールデータ保存・管理ソリューションの提供で協業した。

提供されるソリューションは、センドメールのメールコピー製品「Sendmail Message Copier（Copier)」と、日立ソフトの電子メール管理ソフト「Message Finder（メッセージファインダー)」とを組み合わせたソリューションである。膨大なメールデータの中から長期保管が必要とされる電子メールデータのみを抽出、保管する機能を提供することで、全体の投資コストを抑えたコストパフォーマンスの高いシステムを提供することができる。また、書き換え・消去禁止機能を持つ光ディスクシステムを組み合わせることで、より厳格な法規制を遵守することができる。

同ソリューションの販売は、2004年12月から開始されており、今後両社は、電子メールデータの保存・管理を促進するための共同セミナーなどを予定している。

ソリトンシステムズ（03-5360-3811）

Win32と.PCセキュリティ機能／サーバ監視機能を強化した「e-Care V4.0」の出荷を開始

ソリトンシステムズは、同社の統合システム管理ソフトウェア「e-Care(イーケア)V4.0」の出荷を開始した。e-Careは、マルチベンダー環境のPCやプリンタ、サーバやネットワーク機器の管理や監視に焦点をあてた統合システム管理ソフトウェアで、管理・監視システムが短時間で導入・構築ができる点と操作性が評価されており、小規模から大規模（最大約35000台の実績）まで、幅広い層の企業での実績がある。

今回のバージョンでは、従来一つのパッケージだったものを、ネットワーク上の機器の資産管理（AssetManager)、サーバ監視(ServerManager)、ネットワーク監視（NetworkManager）というように個々に製品化し、単独でも統合でも提供できるようにした。機能面では、PCセキュリティを考慮した資産管理機能の強化（ウイルスエンジンやパターンファイルのチェック機能や持ちこみPC自動検出機能）と、監視サービスにも適するサーバ監視機能が拡張（パフォーマンス監視機能や自動レポート出力機能）された。また、e-Care資産管理は、ICカードでPCセキュリティを実現する「ソリトンSmartOn」や、PC利用のログを解析する「ソリトンInfoTrace」と組み合わせることにより、情報漏洩対策でも威力を発揮する。